

表 6-8 ブックリストの例

	図書名	発行所	著者	発行年	
薬局方・公定書・辞典・全集関係	医療薬日本医薬品集	じほう	監：日本医薬品集フォーラム	年刊	
	保険薬事典 薬効別薬価基準	じほう	編：薬業研究会	年2回刊	
	一般薬日本医薬品集	じほう	監：日本医薬品集フォーラム	隔年刊	
	医学書院医学大辞典(第2版)	医学書院	総編集：伊藤正男, 他	2009	
	MARTINDALE The Complete Drug Reference(36th ed.)	Parmaceutical Press	ed by Sweetman SC	2009	
	ステッドマン医学大辞典(改訂版第6版)	メジカルビュー社	編：ステッドマン医学大辞典編集委員会	2008	
	第十五改正 日本薬局方	廣川書店	編：日本公定書協会	2006	
	The Merck Index 14th ed.	MERK&Co,nc.	Meds by O'nel MJ, et al	2006	
	医学英和大辞典(改訂12版)	南山堂	監：佐藤登志郎	2005	
	化学便覧 基礎編(改訂5版)	丸善	編：日本化学会	2004	
薬剤学・調剤学・製剤学・薬局管理学関係	臨床医薬品要覧	じほう	編：(社)大阪府病院薬剤師会	1999	
	錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報(改訂6版)	医薬ジャーナル社	編：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安全性編集委員会	2009	
	病院薬局製剤(第6版)	薬事日報社	編：日本病院薬剤師会	2008	
	注射薬調剤監査マニュアル(第3版)	エルゼビア・ジャパン	編：山口県病院薬剤師会注射調剤特別委員会	2008	
	調剤学総論(改訂9版)	南山堂	著：堀岡正義	2007	
	麻薬・向精神薬・覚せい剤管理ハンドブック(第8版)	じほう	監：日本公定書協会	2007	
	内服薬 経管投与ハンドブック(第2版)	じほう	監：藤島一郎	2006	
	簡易懸濁法可能医薬品一覧表				
	混注時の留意点 表解注射薬の配合変化(改訂9版)	じほう	監：菅原 溝	2005	
	医薬品情報学(第3版)	東京大学出版会	監：山崎幹夫	2005	
	改訂 添付文書の読み方 - 医薬品を正しく理解するために	じほう	著：望月眞弓	2004	
	処方せんの基本ルールと書き方	エルゼビア・ジャパン	監：田中信行	2004	
	注射薬調剤	じほう	監：矢後和夫	2002	
	新 GCP の普及定着に向けて	エルゼビア・ジャパン	編：全国国立大学病院薬剤師部長会常置委員会 新 GCP ワーキンググループ	2001	
	調剤業務指針(第5版)	じほう	編：日本薬剤師会	1997	
	薬学生 病院実習マニュアル	じほう	監：東京都病院薬剤師会	1997	
	調剤指針注解	薬事日報社	監：永瀬一郎	1996	
	病院薬局学(第11版)	南山堂	著：堀岡正義	1993	
	薬理学・薬物治療学・薬物動態学・服薬指導関係	治療薬マニュアル	医学書院	監：高久史磨, 他	年刊
		今日の治療薬	南江堂	編：水島裕	年刊
改訂2版 透析患者への投薬ガイドブック - 慢性腎臓病(CKD)の薬物治療		じほう	編：平田純生, 他	2009	
新小児薬用量(改訂第5版)		診断と治療社	編：五十嵐 隆, 他	2009	
レジデントのための感染症診療マニュアル(第2版)		医学書院	著：青木 眞	2008	
グットマン・ギルマン 薬理書 上下(第11版)		廣川書店	監訳：高折修二, 他	2007	
メルクマニュアル日本語版(第18版)		日経 BP 社	監：福島雅典	2006	
がん専門薬剤師を目指すための抗がん剤業務ハンドブック		じほう	編：国立がんセンター薬剤部	2006	

(つづく)

表 6-8 ブックリストの例(つづき)

	図書名	発行所	著者	発行年
薬理学・ 薬物治療学・ 薬物動態学・ 服薬指導 関係	クリニカルファーマシーのための疾病解析(第7版)	医薬ジャーナル社	監訳：福地 坦	2005
	薬剤師のための 輸液・栄養療法	薬事日報社	編：東京都病院薬剤師会	2004
	病院感染対策ガイドライン	じほう	編：国立大学医学部附属病院感染対策協議会	2004
	臨床薬理学(第2版)	医学書院	編：日本臨床薬理学会	2003
	予防接種ハンドブック(第9版)	日本医事新報社	編：予防接種法令研究会	2002
	アプライドセラピューティクス 症例解析にもとづく薬物治療 第1～5巻	じほう	日本語版総編集：緒方宏泰，他	2000～ 2002
	医療用麻薬の利用と管理ーがん疼痛緩和へのモルヒネの適正使用ー 1999 / 2000	エルゼビア・ジャパン	監：麻薬研究会	1999
	改訂 解説 薬剤管理指導業務ーその考え方とあり方	じほう	編：日本病院薬剤師会	1998
	重大な副作用回避のための服薬指導情報集 第1～4集	じほう	編：日本病院薬剤師会	1997～ 2001
	副作用・ 相互作用・ 中毒関係	薬の相互作用としくみ(第9版)	医歯薬出版	編：杉山正康
実践 妊娠と薬ー10,000例の相談事例とその情報(第2版)		じほう	編：佐藤孝道，他	2010
医薬品副作用要覧[第3集]		エルゼビア・ジャパン	監：安全対策研究会	2004
がん化学療法の有害反応対策ハンドブック(第4版)		先端医学社	監：吉田清一	2004
薬・毒物中毒救急マニュアル改訂(第7版)		医薬ジャーナル社	監：西 勝英	2003
授乳婦と薬ー薬剤の母乳移行性情報とその評価		じほう	編：東京都病院薬剤師会	2000
飲食物・嗜好品と医薬品の相互作用		じほう	編：「飲食物・嗜好品と医薬品の相互作用」研究班	1998
医薬品の副作用大事典(第12版)		西村書店	著：レオ・メイラー	1998

た医薬品卸情報誌で定期的にチェックし、薬剤師会雑誌または情報サイトのDSUや安全性情報と照合する、④問い合わせの多い分野について信頼性の高い書籍または雑誌を選択しながら購入する、というような方法が現実的と思われる。

b 情報の加工

施設内の各部署に医薬品に関して通知する必要が生じた場合や、参画する医療チームで医薬品に関するマニュアルや一覧表を作成する必要が生じた場合には、収集した情報を理解しやすい内容に加工および再構築し、評価を加えた資料を作成する。

加工の手順は、初めに提供するテーマに関連す

る最新のデータを複数収集し、次にデータ内容をよく吟味し評価した上で、目的に応じて論理的かつ理解しやすい表現方法を工夫する。提供する相手の状況を考慮しながら、情報を簡素化して要点を明確に示すことが重要である。必要に応じて、簡潔な解説や臨床症例をつけ加える。

多くの施設では、薬事委員会での医薬品の採用と削除、副作用情報、その他医薬品関連情報を掲載した医薬品関連通知文書(薬事ニュース、DIニュースなど)を定期的または緊急で配布する。また、新規薬剤の採用にあたっては添付文書、インタビューフォーム、製品情報概要などから必要な情報を選択して基礎情報を集積し、医薬品集の作成に利用する。薬効群を選んで、基礎情報のほか